2026／1／18　津高東京同窓会「輪番幹事会②」記録

日　時　　2026 年(令和 8 年)1 月 18 日 14：00～15：00
場　所　　品川区・品川第一区民集会所(第一集会室)
出席者　　昭 53 年卒　石橋万樹、北口久乃、小柴良介、武　行美、田中紀美子、
　　田中成幸、田中さゆり
　　昭 54 年卒　上田純三、藤波　晃、山崎浩幸、渡邊喜久
　　昭 63 年卒　大塚真弓、倉田　徹
　　事務局　　西村修一、吉田万里子、伊藤俊一、神戸洋史、中川法子
　　森田和久、清水徹、（田中成幸）
（以上 20 名、敬称略）

第１．今後のスケジュールと決定プロセスについて
１．今回と次回（3/15）の 2 回で大枠を決定する。
２．５月の運営委員会（5/17）で具体内容を報告し、承認を得る。

第２．同窓会名簿の充実・連絡手段について
１．郵送費用の値上げに対応するため、全員宛メーリングリストを用意し、「全員発信・全員返信」で運用する方針が説明された。
２．同窓会名簿を充実し参加者の増加を図る必要があり、既存名簿ベースで全員連絡を目指し、知人紹介も活用する。
S63 年卒は同窓会名義封筒の在庫を有効活用し、47 通発送したところ、約１割の反応があった。
各卒年でのメールアドレス収集を最優先とする。
また、同窓会会場での受付の際に、学生・新卒向けメールアドレス収集を継続する。
３．会計の現状について
現状、総会・懇親パーティは約 20 万円の黒字となっているが、案内状の郵送費等事務経費約２０万円を加味すると、実質的な収支はギリギリで見合っている。
有料会員収入（約 176 万円）の範囲内で諸経費とホテルへの支払いを賄う

運用となっている。

東京同窓会では、学生の参加は無料とする方針を継続したいと考える（学生の参加人数増は会費でカバー）。

第３．進行・挨拶の運営方針と時間管理

１．総会時間を短縮し、長尺スピーチ回避する。乾杯・来賓挨拶は２分半～３分目安とする。案内状に３分厳守の記載はあるが、来賓の方の中には遵守しない方がいる虞あり。

２．司会は、必要に応じベル等で時間管理を検討する。

３．出し物で抽選をする際には、その抽選は前倒しで、会場の注意が散る前に実施する必要がある旨の問題提起がなされた。

第４．恩師の招待・来賓構成について

１．音楽の羽根先生に出席依頼済みであることの報告がなされた。

もう１名については次回までに決定する方針で、適任者が見つからない場合は校長経由で現役若手教員の派遣を依頼することも検討する。

来賓は、本部同窓会より３名と大阪・名古屋各同窓会の各会長と校長先生の８人。。

新会員については、２名が３分程度発言予定。

校長先生の挨拶について、今回はスライドなしの可能性もあるが、多少長くなってもやむを得ない。（10 分程度）

２．羽根先生には、校歌斉唱の際の指揮を依頼する方向である。

なお、羽根先生より、 校歌斉唱の指揮にあたって楽譜が欲しいとの要望があり、現在津高校に楽譜保管について確認中。

３．羽根先生のプロフィール（在籍期間・卒年・現在活動・写真）を収集し、揃い次第案内状を作成（7 月上旬会議で承認）

第５．同窓会当日の役割分担その他について

１． 司会は１人でも２人でも可。昨年は決定が７～８月に遅延した。このほか受付・案内・会計責任者・記録係・文章係（報告書）・カメラ担当が必要。

２．昨年は、記録が３名、写真が１名であった。

受付は、延べ 15 人程度を想定している。案内と受付の役割区別に認識のズレがないよう、８月初旬（8/2）の輪番幹事会でマニュアルの読み合わせを行う予定である。

金銭取扱いは会計責任者が対応。案内（会場外）は若手（S63）中心、当日朝でも対応可。受付は当日出席者の余剰人員充当も検討。

３．参加見込みは輪番幹事の学年ごと 10～25 人程度、全体目安各年次 20 人は集めたい。。

４．年次テーマ（キャッチフレーズ）

直近２年は設定なし。過去例は「蘇る青春」「再開そして再会」など。今回は「次の世代につなぐ／橋渡し」等の案が出た。

年次テーマ案を次回まで募集し、適当なテーマが出なければ今年も「なし」の可能性。

５．音楽演出・バンド招致・校歌斉唱について

会場は機材（ドラム禁止等）・時間制約があり、セッティング時間の影響が懸念される。

乾杯と同時に BGM 演奏で進行を妨げない案、編成縮小（5 人→3 人）で負担軽減するという案もある。

また、　過去の会場と比べて、現在の会場は縦長で後部からは見にくく、出し物の効果が薄くなる可能性が高いことが確認され、そこから、同窓会本来の目的（歓談）に立ち返り、テーマや出し物無しの選択を検討することとなった。

出し物については、次回輪番幹事会までに最終結論を出す予定となった。

６．協賛・スポンサー状況

現在の協賛・スポンサーとは、事務局が今後も調整を継続する。

継続的なものではなくとも、同期・卒業生ネットワークを活用したスポット協賛も探る。

以上